

MELSEC-L iQ Sensor Solution 対応 FB ライブラリ リファレンスマニュアル

対象ユニット:

L02CPU, L06CPU, L26CPU, L26CPU-BT,
L02CPU-P, L06CPU-P, L26CPU-P, L26CPU-PBT

《目次》

リファレンスマニュアル改訂履歴	2
1. 概要	3
1. 1. FBライブラリ概要	3
1. 2. FBライブラリ機能内容	3
1. 3. システム構成例	4
1. 4. インタロックプログラムの作成	5
1. 4. 1. AnyWireASLINK接続のプログラム	5
1. 4. 2. CC-Link接続のプログラム	6
1. 5. 関連マニュアル	7
1. 6. お願い	7
2. FBライブラリ詳細	8
2. 1. M+LCPU-iQSS_Backup (iQSSセンサ情報保存)	8
2. 2. M+LCPU-iQSS_Restore (iQSSセンサ情報復元)	19
付録 1. FBライブラリ使用例	28
付録 1. 1. AnyWire ASLINK接続の場合	28
付録 1. 2. CC-Link接続の場合	35

リファレンスマニュアル改訂履歴

リファレンスマニュアル番号	改訂日	改訂内容
FBM-M113-A	2013/07/08	新規作成

1. 概要

1. 1. FBライブラリ概要

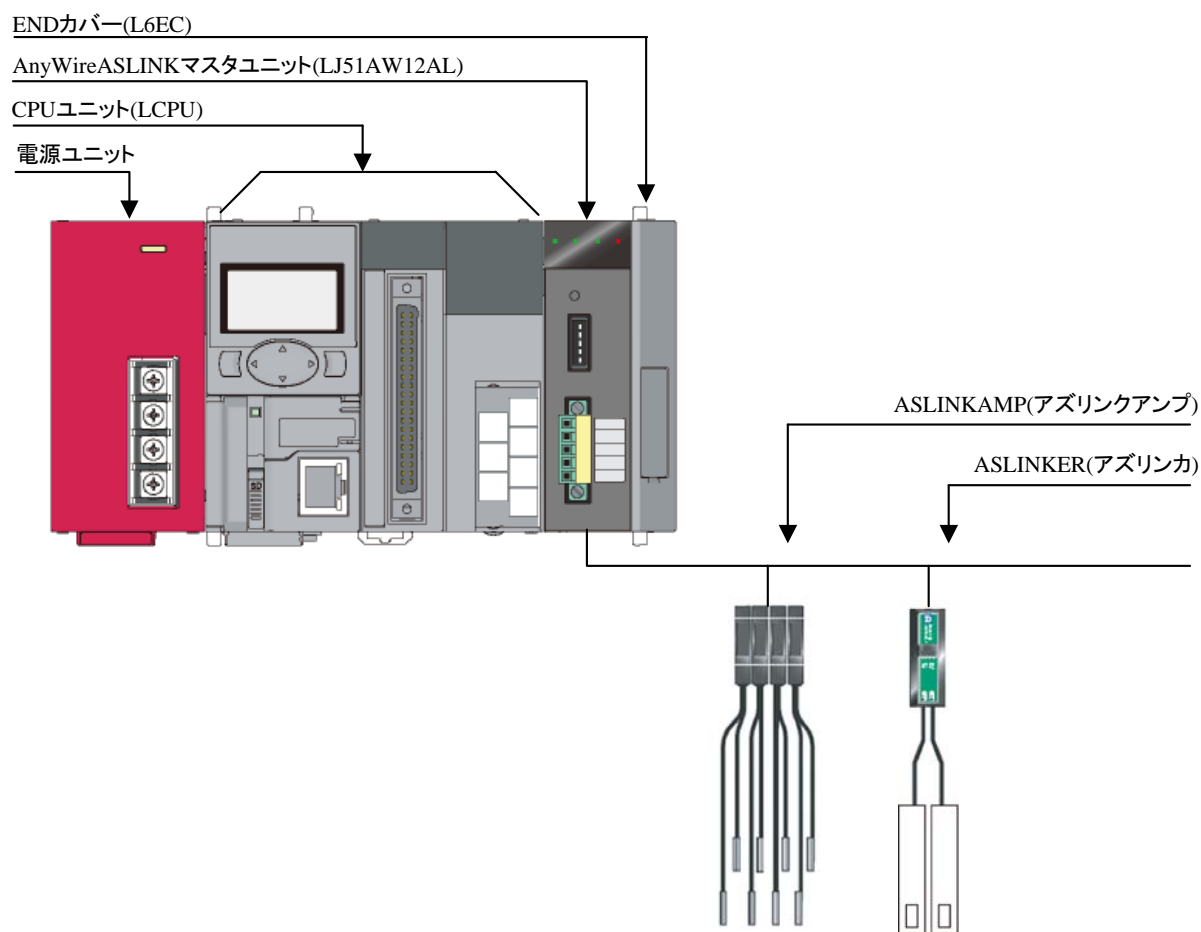
本 FB ライブラリは, L シリーズ CPU ユニット(LCPU)にて iQ Sensor Solution(iQSS)対応機器を使用するための FB ライブラリです。

1. 2. FBライブラリ機能内容

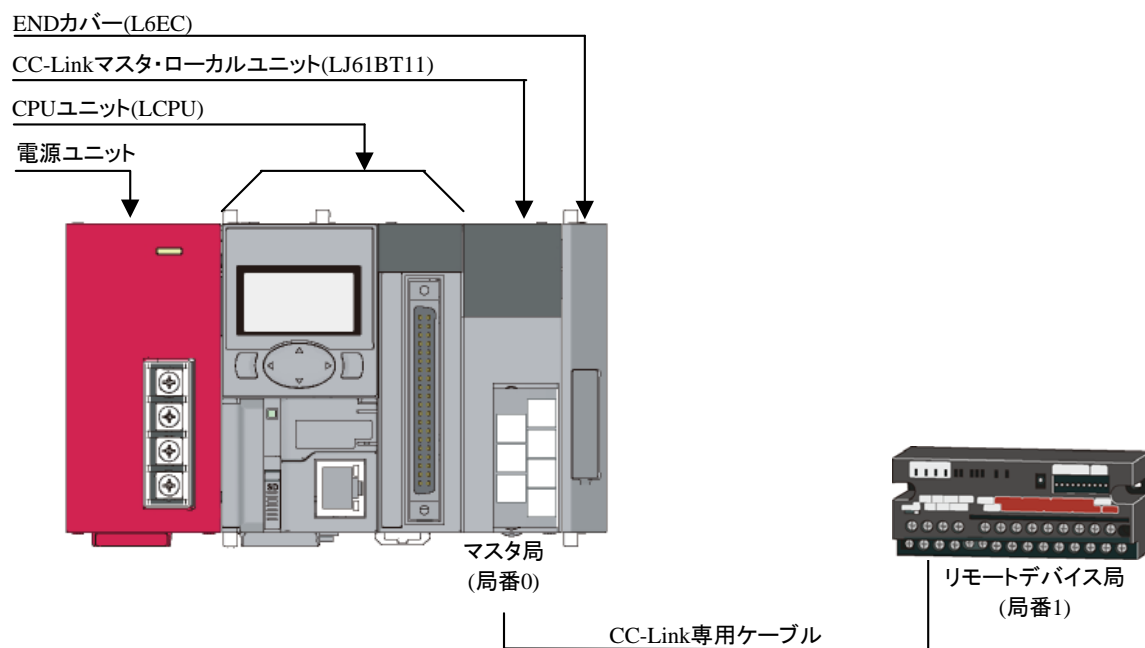
項目	内容
M+LCPU-iQSS_Backup	iQSS 対応機器の設定データなどの情報を SD メモリカードに保存します。
M+LCPU-iQSS_Restore	SD メモリカードに保存した iQSS 対応機器の設定データなどの情報を復元します。

1. 3. システム構成例

(1) AnyWire ASLINK 接続の場合



(2) CC-Link 接続の場合



1. 4. インタロックプログラムの作成

本 FB を使用する際は、インタロックプログラムの作成が必要です。以下にインタロックプログラムの例を示します。

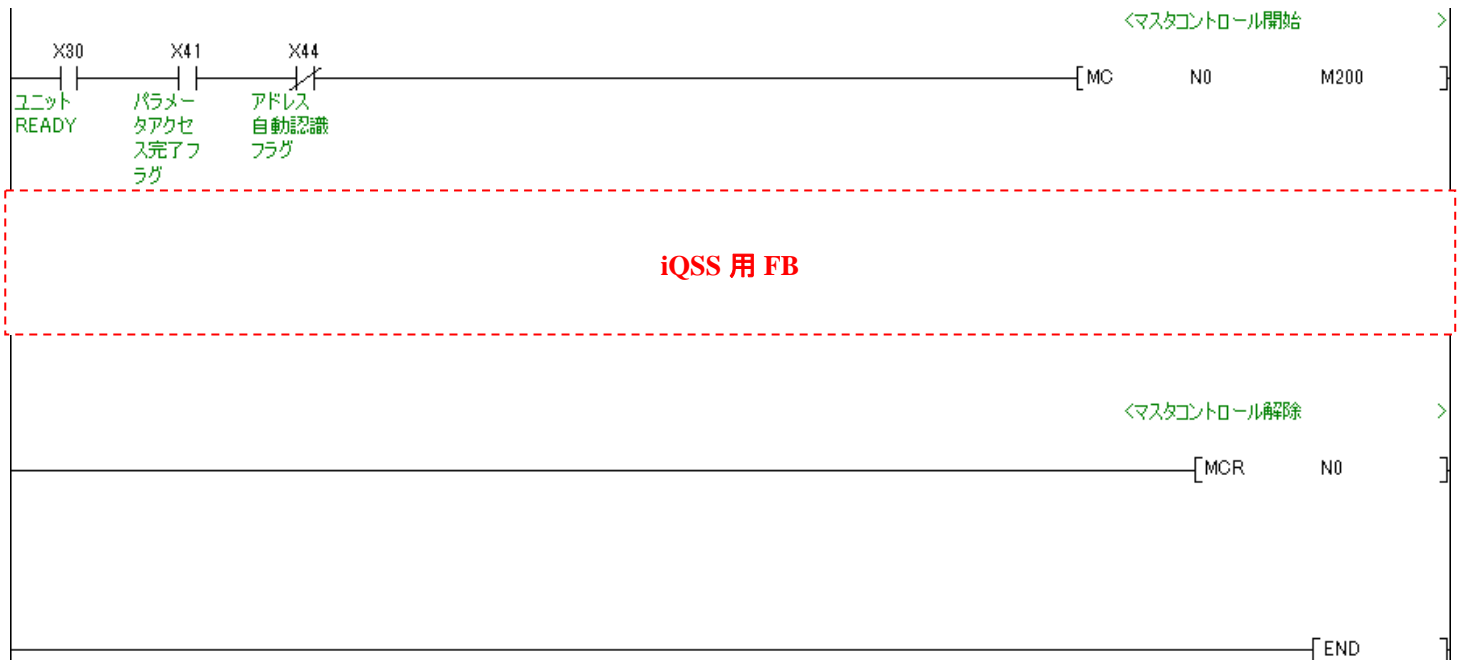
1. 4. 1. AnyWireASLINK接続のプログラム

AnyWireASLINK 接続でのプログラムでは、下記の入力デバイスで状態を取得してください。

(AnyWireASLINK マスタユニットの先頭 XY アドレスが H30 の場合)

- ・ユニットレディ(X30)
- ・パラメータアクセス完了フラグタリク状態(X41)
- ・アドレス自動認識フラグ(X44)

例



上記は、マスタコントロール(MC 命令, MCR 命令)を使用した場合の例であるため、インタロックの状態に関らず、スキャンタイムは変化しません。

スキャンタイムを低減させるために、プログラム分岐命令(CJ 命令, SCJ 命令)により、該当 FB 処理を実行させないことも可能です。

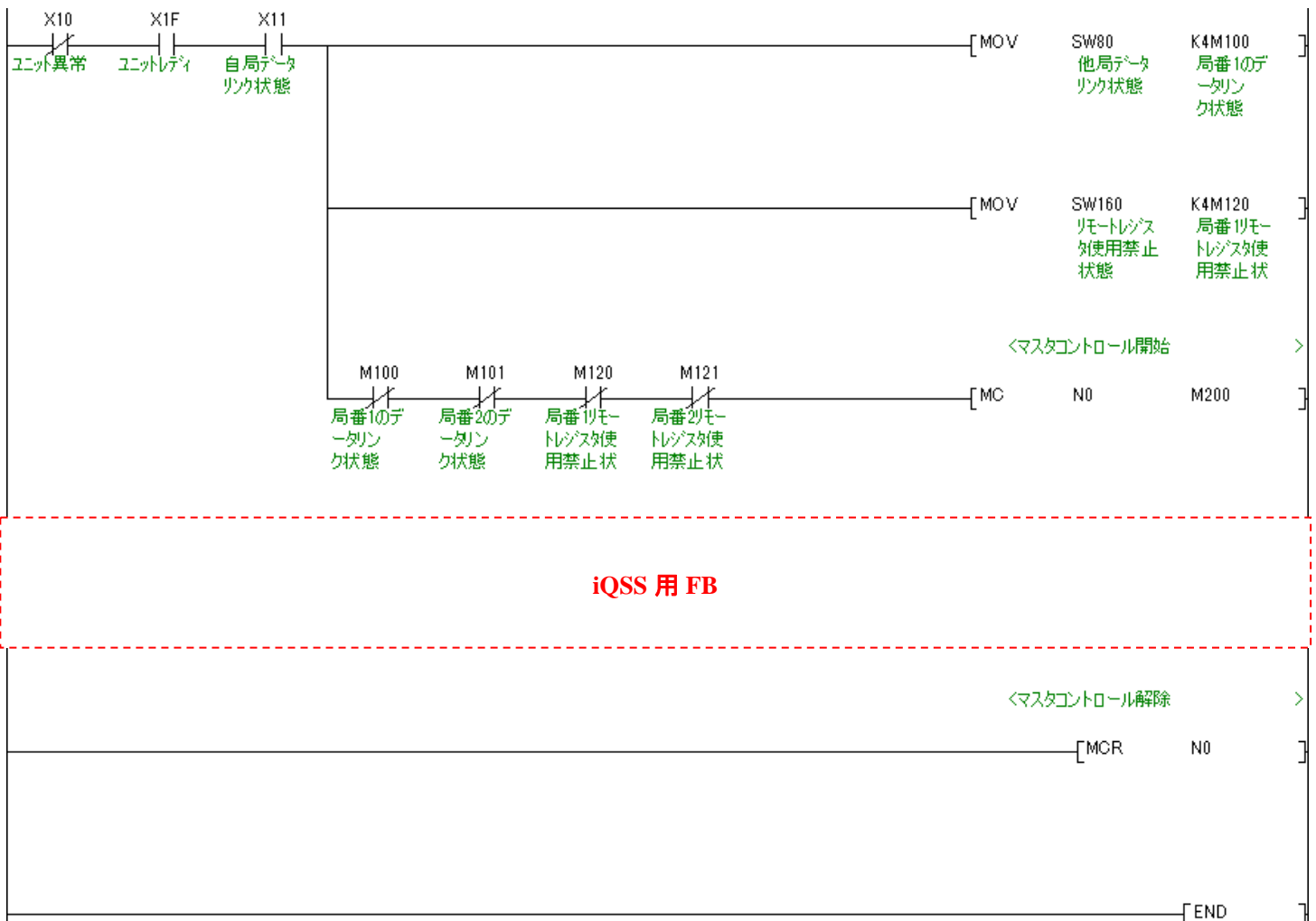
1. 4. 2. CC-Link接続のプログラム

CC-Link 接続でのプログラムでは、下記の入力デバイスで状態を取得してください。

(CC-Link システムマスタ・ローカルユニットの先頭 XY アドレスが H10 の場合)

- ・ユニット異常(X10)
- ・ユニットレディ(X1F)
- ・自局のデータリンク状態(X11)
- ・各局のデータリンク状態(SW80～SW83)
- ・各局のリモートレジスタ使用禁止状態(SW160～SW163)

例 インタロック例(局番 1 および局番 2)



上記は、マスタコントロール(MC 命令, MCR 命令)を使用した場合の例であるため、インタロックの状態に関らず、スキャンタイムは変化しません。

スキャンタイムを低減させるために、プログラム分岐命令(CJ 命令, SCJ 命令)により、該当 FB 処理を実行させないことも可能です。

1. 5. 関連マニュアル

MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル(ハードウェア設計・保守点検編)

MELSEC-Q/L AnyWireASLINK マスタユニット ユーザーズマニュアル

MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニット ユーザーズマニュアル

iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル

GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル(共通編)

GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル(インテリジェント機能ユニット操作編)

GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル(シンプルプロジェクト・ファンクションブロック編)

1. 6. お願い

ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

2. FBライブラリ詳細

2. 1. M+LCPU-iQSS_Backup(iQSSセンサ情報保存)

名称

M+LCPU-iQSS_Backup

機能内容

項目	内容																																		
機能概要	iQSS 対応機器の設定データなどの情報を SD メモリカードに保存します。																																		
シンボル	<table><tr><th colspan="3">M+LCPU-iQSS_Backup</th></tr><tr><td>実行命令</td><td>B : FB_EN</td><td>FB_ENO : B — 実行状態</td></tr><tr><td>バックアップ/リストア使用要求番号</td><td>W : iw_UseReqNo</td><td>FB_OK : B — 正常終了</td></tr><tr><td>対象種別</td><td>W : iw_TarType</td><td>ow_BackupStatus : W — バックアップ状態</td></tr><tr><td>実行単位</td><td>W : iw_ExeUnit</td><td>ow_BackFolderNo : W — バックアップフォルダ番号</td></tr><tr><td>バックアップ対象設定(ユニット)</td><td>W : iw_UnitNo</td><td>ow_OKEquipNum : W — バックアップ正常完了機器数</td></tr><tr><td>バックアップ対象設定(機器1)</td><td>W : iw_TarSetting1</td><td>ow_NGEquipNum : W — バックアップ異常完了機器数</td></tr><tr><td>バックアップ対象設定(機器2)</td><td>W : iw_TarSetting2</td><td>ow_UnitErrFactor : W — バックアップユニットエラー要因</td></tr><tr><td>バックアップ対象フォルダ番号</td><td>W : iw_TarFolderNo</td><td>ow_EquErrFactor : W — バックアップ機器詳細エラー要因</td></tr><tr><td>バックアップ動作設定</td><td>W : iw_OpeSetting</td><td>FB_ERROR : B — エラー終了</td></tr><tr><td>バックアップ中止要求</td><td>B : ib_StopReq</td><td>ERROR_ID : W — エラーコード</td></tr></table>		M+LCPU-iQSS_Backup			実行命令	B : FB_EN	FB_ENO : B — 実行状態	バックアップ/リストア使用要求番号	W : iw_UseReqNo	FB_OK : B — 正常終了	対象種別	W : iw_TarType	ow_BackupStatus : W — バックアップ状態	実行単位	W : iw_ExeUnit	ow_BackFolderNo : W — バックアップフォルダ番号	バックアップ対象設定(ユニット)	W : iw_UnitNo	ow_OKEquipNum : W — バックアップ正常完了機器数	バックアップ対象設定(機器1)	W : iw_TarSetting1	ow_NGEquipNum : W — バックアップ異常完了機器数	バックアップ対象設定(機器2)	W : iw_TarSetting2	ow_UnitErrFactor : W — バックアップユニットエラー要因	バックアップ対象フォルダ番号	W : iw_TarFolderNo	ow_EquErrFactor : W — バックアップ機器詳細エラー要因	バックアップ動作設定	W : iw_OpeSetting	FB_ERROR : B — エラー終了	バックアップ中止要求	B : ib_StopReq	ERROR_ID : W — エラーコード
M+LCPU-iQSS_Backup																																			
実行命令	B : FB_EN	FB_ENO : B — 実行状態																																	
バックアップ/リストア使用要求番号	W : iw_UseReqNo	FB_OK : B — 正常終了																																	
対象種別	W : iw_TarType	ow_BackupStatus : W — バックアップ状態																																	
実行単位	W : iw_ExeUnit	ow_BackFolderNo : W — バックアップフォルダ番号																																	
バックアップ対象設定(ユニット)	W : iw_UnitNo	ow_OKEquipNum : W — バックアップ正常完了機器数																																	
バックアップ対象設定(機器1)	W : iw_TarSetting1	ow_NGEquipNum : W — バックアップ異常完了機器数																																	
バックアップ対象設定(機器2)	W : iw_TarSetting2	ow_UnitErrFactor : W — バックアップユニットエラー要因																																	
バックアップ対象フォルダ番号	W : iw_TarFolderNo	ow_EquErrFactor : W — バックアップ機器詳細エラー要因																																	
バックアップ動作設定	W : iw_OpeSetting	FB_ERROR : B — エラー終了																																	
バックアップ中止要求	B : ib_StopReq	ERROR_ID : W — エラーコード																																	
対象機器	iQSS 対応機器	使用できる iQSS 対応機器については、関連マニュアルを参照してください。																																	
	AnyWireASLINK マスタ	LJ51AW12AL ※1																																	
	ユニット	※1 シリアル No.の上 5 桁が“14102”以降																																	
	CC-Link システムマスタ・ローカルユニット	LJ61BT11 ※1 L26CPU-BT, L26CPU-PBT ※1 ※1 シリアル No.の上 5 桁が“14112”以降																																	
	CPU ユニット	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC-L シリーズ</td><td>LCPU ※1 ※2</td></tr></table> ※1 SD メモリカードスロットを搭載しているユニットのみ対応 ※2 シリアル No.の上 5 桁が“14112”以降	シリーズ	モデル	MELSEC-L シリーズ	LCPU ※1 ※2																													
シリーズ	モデル																																		
MELSEC-L シリーズ	LCPU ※1 ※2																																		
エンジニアリングツール	エン지니어リングツール	GX Works2 ※1																																	
		<table><tr><th>言語</th><th>対応しているソフトウェアバージョン</th></tr><tr><td>日本語版</td><td>Version1.11M 以降</td></tr></table>	言語	対応しているソフトウェアバージョン	日本語版	Version1.11M 以降																													
	言語	対応しているソフトウェアバージョン																																	
日本語版	Version1.11M 以降																																		
	※1 使用するユニットに対応するソフトウェアバージョンについては、関連マニュアルを参照してください。																																		

項目	内容
記述言語	ラダー
ステップ数	773 Step (MELSEC-L シリーズの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。
機能説明	<p>1) FB_EN(実行命令)の ON で、指定された iQSS 対応機器の情報を読み出し、CPU ユニットに挿入された SD メモリカードにファイル保存します。</p> <p>2) ow_BackupStatus(バックアップ状態)が 1 または 2 の場合に、ib_StopReq(バックアップ中止要求)を ON、もしくは FB_EN(実行命令)を OFF した場合、バックアップを中止します。 中止は iQSS 対応機器単位で行うため、中止要求時にバックアップ途中である iQSS 対応機器の処理が完了した時点で中止します。</p> <p>3) 本 FB が SD メモリカードに作成するフォルダおよびファイルについては、「iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル」をご参照ください。</p> <p>4) CPU に SD メモリカードを装着せずに本 FB を実行した場合、もしくは装着された SD メモリカードの容量に十分な空きがない場合や格納可能ファイル本数 ※1 を超えた場合、CPU エラー ※2 が発生します。</p> <p>5) L02SCPU および L02SCPU-P の CPU ユニットで本 FB を実行した場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 10(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>6) iw_TarType(対象種別)で指定される対象機種が範囲外の場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 20(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>7) バックアップのための使用権が獲得できない場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 30(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>8) バックアップ対象となる機器の内、一つでも異常が発生していた場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 40(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>※1 SD メモリカードの容量や格納可能ファイル本数については、「MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル(ハードウェア設計・保守点検編)」をご参照ください。</p> <p>※2 SD メモリカードへのアクセス異常が発生した場合の CPU の動作状態(続行/停止)は、パラメータで設定可能です。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型

項目	内容
制約事項, 注意事項等	<p>1) 本 FB は, エラー復旧処理は含んでいません。エラー復旧処理については, お客様のシステムや要求動作に合わせて, 別途作成してください。</p> <p>2) 割込みプログラム内で FB を使用することは出来ません。</p> <p>3) 1 回しか実行されないプログラム (例えば, サブルーチンプログラムや FOR~NEXT) で FB を使用すると, FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作が出来なくなるため, 実行命令の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>4) 本 FB を複数使用する場合, または M+LCPU-iQSS_Restore と使用する場合, 使用要求番号が重複しないように注意してください。</p> <p>5) 本 FB では, 全ての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>6) 使用するシステム構成に合わせ, インタロックプログラムが必要です。</p> <p>7) 本 FB を複数使用した場合, または M+LCPU-iQSS_Restore と使用する場合, コンパイル時に特殊リレー (SM) の 2 重コイルワーニングが発生することがありますが, 使用権を取得しない限りは特殊リレーに対する操作を行いませんので, 使用上特に問題はありません。</p>
FB 動作	パルス型 (複数スキャン実行型)
使用例	項「付録 1. FB ライブラリ使用例」をご覧ください。
入出力信号の動き	<div> <div> <p>【正常終了の場合】</p> </div> <div> <p>【異常終了の場合】</p> </div> </div>
関連マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> ・MELSEC-L CPU ユニッツユーザーズマニュアル (ハードウェア設計・保守点検編) ・MELSEC-Q/L AnyWireASLINK マスタユニット ユーザーズマニュアル ・MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニット ユーザーズマニュアル ・iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (共通編) ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (インテリジェント機能ユニット操作編) ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (シンプルプロジェクト・ファンクションブロック編)

エラーコード

●エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
10(10 進数)	L02SCPU または L02SCPU-P で実行された。	L02SCPU または L02SCPU-P では、バックアップ機能がサポートされていません。 本 FB がサポートする CPU ユニットであることを確認してください。
20(10 進数)	対象種別設定範囲外。 iw_TarType(対象種別)に、1 または 2 以外が設定されています。	設定を見直した後、再度 FB を実行してください。
30(10 進数)	バックアップ実行のための使用権獲得失敗。	iQSS 対象機器に対する、別のバックアップまたはリストアが実行されていないか確認してください。 バックアップ/リストア実行許可(SM1436)をセットし、バックアップ/リストア使用権状況(SD1436)が 0 クリアされることを確認して、再度 FB を実行してください。
40(10 進数)	対象となる iQSS 対応機器のバックアップにおいてエラーが発生。	ow_UnitErrFactor(バックアップユニットエラー要因)および ow_EquErrFactor(バックアップ機器詳細エラー要因)に格納されるエラーコードを確認してください。 エラーコードについては、各機器のマニュアルをご参照ください。

使用ラベル

●入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	ON,OFF	ON:FB を起動する OFF:FB を起動しない
バックアップ/リストア 使用要求番号	iw_UseReqNo	ワード	H1000～H1FFF	バックアップを実行するための 使用権を取得するための重複 しない番号を指定します。
対象種別	iw_TarType	ワード	1,2	バックアップの対象機種を指 定します。 1:AnyWireASLINK 2:CC-Link
実行単位	iw_ExeUnit	ワード	1～3	バックアップの実行単位を指 定します。 対象種別が AnyWireASLINK の場合 1:ユニット単位 2:ID 単位 対象種別が CC-Link の場合 1:ユニット単位 2:局単位 3:局サブ ID 単位
バックアップ対象設定 (ユニット)	iw_UnitNo	ワード	0～HFF	バックアップ対象となる iQSS 対応機器が接続されているユ ニットの先頭 XY アドレスを 16 で割った値を 16 進数で指定し ます。(例えば X10 の場合, H1 を入力してください)

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
バックアップ対象設定 (機器 1)	iw_TarSetting1	ワード	対象種別が AnyWireASLINK の場合 0～254 ※1 512～766 ※2 対象種別が CC-Link の場合 1～64	対象種別が AnyWireASLINK の場合 対象とする iQSS 対応機器の ID 番号を指定します。 ※1 出力スレーブユニットの場合 ※2 入力／複合スレーブユニットの場合は、アドレス +512 を指定する。 対象種別が CC-Link の場合 対象とする iQSS 対応機器の局番, または対象とする iQSS 対応機器が接続された局番を指定します。
バックアップ対象設定 (機器 2)	iw_TarSetting2	ワード	対象種別が AnyWireASLINK の場合 不使用 対象種別が CC-Link の場合 0～9999	対象種別が AnyWireASLINK の場合 不使用です。 対象種別が CC-Link の場合 対象とする iQSS 対応機器の局サブ ID 番号を指定します。
バックアップ対象フォルダ番号	iw_TarFolderNo	ワード	0～99, HFFFE,HFFFF	バックアップデータを保存する対象のフォルダ番号を指定します。 0～99: 対象フォルダ指定 FFFEH: 自動指定(フォルダ削除対応) FFFFH: 自動指定
バックアップ動作設定	iw_OpeSetting	ワード	0,1	バックアップの動作設定を指定します。 0: エラー発生時動作続行 1: エラー発生時動作停止
バックアップ中止要求	ib_StopReq	ビット	ON,OFF	ON: 実行中のバックアップ処理を中止します。

●出力ラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:実行命令 ON 中。 OFF:実行命令 OFF。
正常終了	FB_OK	ビット	OFF	対象のバックアップが正常終了した場合に ON します。
バックアップ状態	ow_BackupStatus	ワード	0	バックアップの実行状態を示します。 0H: 未実行 1H: 準備中 2H: 実行中 3H: 完了 10H: 中止待ち 11H: 中止(エラーなし) FEH: 中止(エラーあり) FFH: エラー
バックアップフォルダ 番号	ow_BackFolderNo	ワード	0	バックアップデータを保存したフォルダ番号を 示します。
バックアップ正常完了 機器数	ow_OKEquipNum	ワード	0	実行単位ごとで、正常完了した機器数が格 納されます。
バックアップ異常完了 機器数	ow_NGEquipNum	ワード	0	実行単位ごとで、異常完了した機器数が格 納されます。
バックアップユニットエ ラー要因	ow_UnitErrFactor	ワード	0	CPU ユニット, AnyWireASLINK マスタユニッ ト, CC-Link システムマスタ・ローカルユニッ トで発生したエラーコードが格納されます。 エラーコードについては、各機器のマニユア ルをご参照ください。
バックアップ機器詳細 エラー要因	ow_EquErrFactor	ワード	0	iQSS 対応機器で発生したエラーコードが格 納されます。 エラーコードについては、各機器のマニユア ルをご参照ください。
エラー終了	FB_ERROR	ビット	OFF	ON の場合, FB 内でエラーが発生したことを 示します。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生した異常コードを返します。

処理説明

1) 対象機器の指定

指定されたユニットに接続される機器のセンサ情報を SD メモリカードへ保存します。

実行単位により、保存対象とする機器を指定できます。

a) AnyWireASLINK 接続の場合

実行単位	内容
1: ユニット単位	iw_UnitNo(バックアップ対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの AnyWireASLINK マスタユニットに接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
2: ID 単位	iw_UnitNo(バックアップ対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの AnyWireASLINK マスタユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(バックアップ対象設定(機器 1))で指定された ID 番号の iQSS 対応機器の情報を対象とする。

b) CC-Link 接続の場合

実行単位	内容
1: ユニット単位	iw_UnitNo(バックアップ対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
2: 局単位	iw_UnitNo(バックアップ対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(バックアップ対象設定(機器 1))で指定された局番に接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
3: 局サブ ID 単位	iw_UnitNo(バックアップ対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(バックアップ対象設定(機器 1))で指定された局番に接続されている中で、iw_TarSetting2(バックアップ対象設定(機器 2))で指定された局サブ ID 番号の iQSS 対応機器の情報を対象とする。

2) バックアップフォルダ指定方法

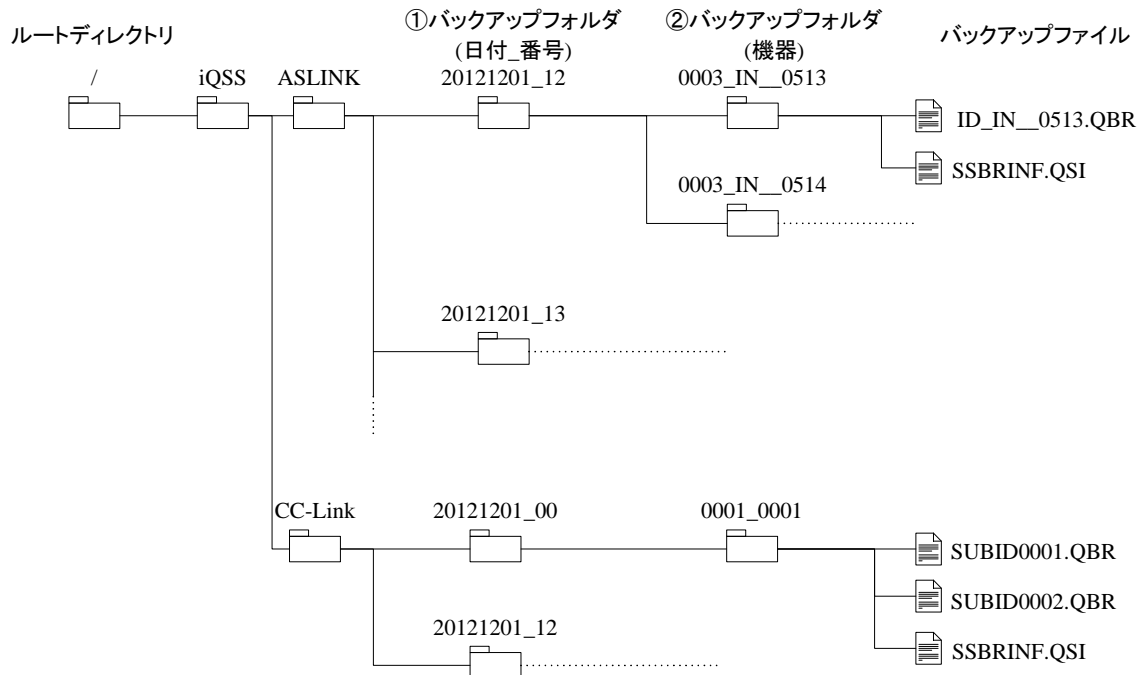
SD メモリカード上に保存するフォルダ名の番号を iw_TarFolderNo(バックアップ対象フォルダ番号)で指定します。

バックアップ対象フォルダ番号	内容
0～99	バックアップフォルダ名の番号を 0～99 で指定します。 同一番号を含むフォルダが存在した場合、フォルダ名の変更は行わず、対象のデータを実行単位で上書きします。
HFFFE: 自動指定 (フォルダ削除対応)	バックアップフォルダ名の番号 0～99 の中で未使用の番号の内、最小の番号を使用します。 未使用の番号がない場合、作成日時が最も古いバックアップフォルダを削除し、削除した番号で新規にフォルダを作成します。
HFFFF: 自動設定	バックアップフォルダ名の番号 0～99 の中で未使用の番号の内、最小の番号を使用します。 未使用の番号がない場合、エラーとなります。

3) バックアップフォルダ

a) バックアップフォルダ構成

SD メモリカード上に保存されるフォルダの構成例を以下に示します。

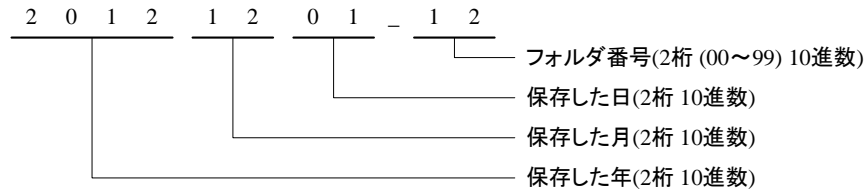


※1 バックアップ実行時に、ルートディレクトリ上の「iQSS」フォルダの下にバックアップデータの保存を行います。

「iQSS」フォルダが存在しない場合は、バックアップ実行時に「iQSS」フォルダを新規作成します。

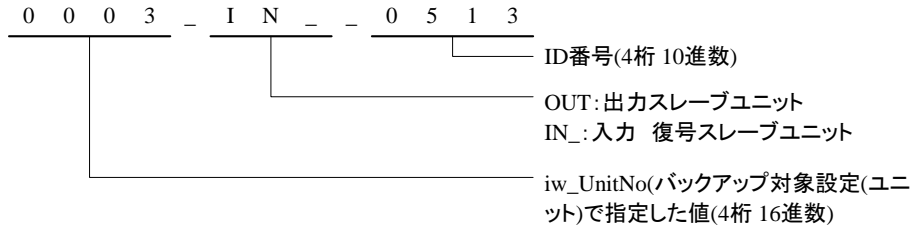
※2 「ASLINK」フォルダ、「CC-Link」フォルダ内のバックアップフォルダ(日付_番号)は、最大 100 個まで保存できます。

b) バックアップフォルダ (日付_番号)

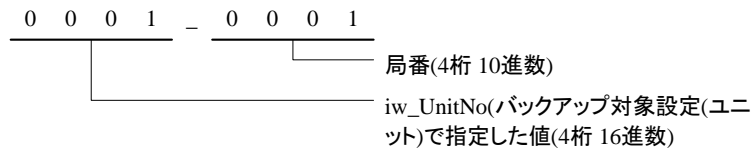


c) バックアップフォルダ (機器)

AnyWireASLINK 接続の場合

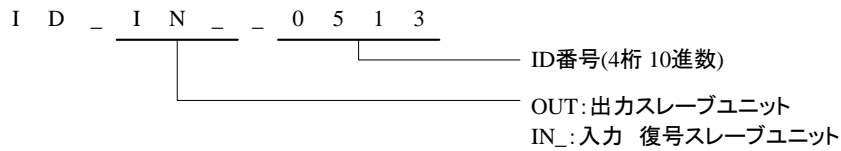


CC-Link 接続の場合



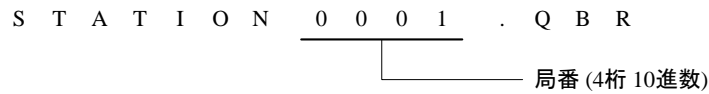
d) バックアップファイル

AnyWireASLINK 接続の場合

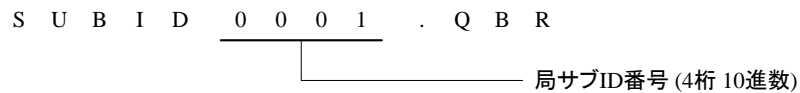


CC-Link 接続の場合

局番の場合



局サブID番号の場合



FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2013/07/08	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明した資料です。

ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項, 組み合わせによる制限事項などについては記載されていません。

ご使用にあたりましては, 必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。



2. 2. M+LCPU-iQSS_Restore (iQSS センサ情報復元)

名称

M+LCPU-iQSS_Restore

機能内容

項目	内容																																		
機能概要	SD メモリカードに保存した iQSS 対応機器の設定データなどの情報を復元します。																																		
シンボル	<table><tr><td colspan="3">M+LCPU-iQSS_Restore</td></tr><tr><td>実行命令</td><td>B : FB_EN</td><td>FB_ENO : B 実行状態</td></tr><tr><td>バックアップ/リストア使用要求番号</td><td>W : iw_UseReqNo</td><td>FB_OK : B 正常終了</td></tr><tr><td>対象種別</td><td>W : iw_TarType</td><td>ow_RestoreStatus : W リストア状態</td></tr><tr><td>実行単位</td><td>W : iw_ExeUnit</td><td>ow_OKEquipNum : W リストア正常完了機器数</td></tr><tr><td>リストア対象設定(ユニット)</td><td>W : iw_UnitNo</td><td>ow_NGEquipNum : W リストア異常完了機器数</td></tr><tr><td>リストア対象設定(機器1)</td><td>W : iw_TarSetting1</td><td>ow_UnitErrFactor : W リストアユニットエラー要因</td></tr><tr><td>リストア対象設定(機器2)</td><td>W : iw_TarSetting2</td><td>ow_EquErrFactor : W リストア機器詳細エラー要因</td></tr><tr><td>リストア対象フォルダ番号</td><td>W : iw_TarFolderNo</td><td>FB_ERROR : B エラー終了</td></tr><tr><td>リストア動作設定</td><td>W : iw_OpeSetting</td><td>ERROR_ID : W エラーコード</td></tr><tr><td>リストア中止要求</td><td>B : ib_StopReq</td><td></td></tr></table>		M+LCPU-iQSS_Restore			実行命令	B : FB_EN	FB_ENO : B 実行状態	バックアップ/リストア使用要求番号	W : iw_UseReqNo	FB_OK : B 正常終了	対象種別	W : iw_TarType	ow_RestoreStatus : W リストア状態	実行単位	W : iw_ExeUnit	ow_OKEquipNum : W リストア正常完了機器数	リストア対象設定(ユニット)	W : iw_UnitNo	ow_NGEquipNum : W リストア異常完了機器数	リストア対象設定(機器1)	W : iw_TarSetting1	ow_UnitErrFactor : W リストアユニットエラー要因	リストア対象設定(機器2)	W : iw_TarSetting2	ow_EquErrFactor : W リストア機器詳細エラー要因	リストア対象フォルダ番号	W : iw_TarFolderNo	FB_ERROR : B エラー終了	リストア動作設定	W : iw_OpeSetting	ERROR_ID : W エラーコード	リストア中止要求	B : ib_StopReq	
M+LCPU-iQSS_Restore																																			
実行命令	B : FB_EN	FB_ENO : B 実行状態																																	
バックアップ/リストア使用要求番号	W : iw_UseReqNo	FB_OK : B 正常終了																																	
対象種別	W : iw_TarType	ow_RestoreStatus : W リストア状態																																	
実行単位	W : iw_ExeUnit	ow_OKEquipNum : W リストア正常完了機器数																																	
リストア対象設定(ユニット)	W : iw_UnitNo	ow_NGEquipNum : W リストア異常完了機器数																																	
リストア対象設定(機器1)	W : iw_TarSetting1	ow_UnitErrFactor : W リストアユニットエラー要因																																	
リストア対象設定(機器2)	W : iw_TarSetting2	ow_EquErrFactor : W リストア機器詳細エラー要因																																	
リストア対象フォルダ番号	W : iw_TarFolderNo	FB_ERROR : B エラー終了																																	
リストア動作設定	W : iw_OpeSetting	ERROR_ID : W エラーコード																																	
リストア中止要求	B : ib_StopReq																																		
対象機器	iQSS 対応機器	使用できる iQSS 対応機器については、関連マニュアルを参照してください。																																	
	AnyWireASLINK マスタ ユニット	LJ51AW12AL ※1 ※1 シリアル No.の上 5 桁が“14102”以降																																	
	CC-Link システムマス タ・ローカルユニット	LJ61BT11 ※1 L26CPU-BT, L26CPU-PBT ※1 ※1 シリアル No.の上 5 桁が“14112”以降																																	
	CPU ユニット	<table><tr><th>シリーズ</th><th>モデル</th></tr><tr><td>MELSEC-L シリーズ</td><td>LCPU ※1 ※2</td></tr></table> ※1 SD メモリカードスロットを搭載しているユニットのみ対応 ※2 シリアル No.の上 5 桁が“14112”以降	シリーズ	モデル	MELSEC-L シリーズ	LCPU ※1 ※2																													
	シリーズ	モデル																																	
MELSEC-L シリーズ	LCPU ※1 ※2																																		
エンジニアリングツール	GX Works2 ※1 <table><tr><th>言語</th><th>対応しているソフトウェアバージョン</th></tr><tr><td>日本語版</td><td>Version1.11M 以降</td></tr></table> ※1 使用するユニットに対応するソフトウェアバージョンについては、 関連マニュアルを参照してください。	言語	対応しているソフトウェアバージョン	日本語版	Version1.11M 以降																														
言語	対応しているソフトウェアバージョン																																		
日本語版	Version1.11M 以降																																		
記述言語	ラダー																																		

項目	内容
ステップ数	<p>732 Step (MELSEC-L シリーズの場合)</p> <p>※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。</p>
機能説明	<p>1) FB_EN(実行命令)の ON で、iw_TarFolderNo(リストア対象フォルダ番号)で指定された SD メモリカード上の情報を読み出し、iQSS 対応機器へ情報を復元します。</p> <p>2) ow_RestoreStatus(リストア状態)が 1 または 2 の場合に、ib_StopReq(リストア中止要求)を ON、もしくは FB_EN(実行命令)を OFF した場合、リストアを中止します。 中止は iQSS 対応機器単位で行うため、中止要求時にリストア途中である iQSS 対応機器の処理が完了した時点で中止します。</p> <p>3) 本 FB が読み出すフォルダおよびファイルについては、「iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル」をご参照ください。</p> <p>4) CPU に SD メモリカードを装着せずに本 FB を実行した場合、CPU エラー ※1 が発生します。</p> <p>5) L02SCPU および L02SCPU-P の CPU ユニットで本 FB を実行した場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 10(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>6) iw_TarType(対象種別)で指定される対象機種が範囲外の場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 20(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>7) リストアのための使用権が獲得できない場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、FB の処理を中断します。 また、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 30(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>8) リストア対象となる機器の内、一つでも異常が発生していた場合は、FB_ERROR(エラー終了)が ON し、ERROR_ID(エラーコード)にはエラーコード 40(10 進数)が格納されます。 エラーコードについては、エラーコード解説部分を参照してください。</p> <p>※1 メモリカードへのアクセス異常が発生した場合の CPU の動作状態(続行/停止)は、パラメータで設定可能です。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型

項目	内容
制約事項, 注意事項等	<p>1) 本 FB は, エラー復旧処理は含んでいません。エラー復旧処理については, お客様のシステムや要求動作に合わせて, 別途作成してください。</p> <p>2) 割込みプログラム内で FB を使用することは出来ません。</p> <p>3) 1 回しか実行されないプログラム (例えば, サブルーチンプログラムや FOR~NEXT) で FB を使用すると, FB_EN (実行命令) の OFF 処理を実行することができず正常な動作が出来なくなるため, 実行命令の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>4) 本 FB を複数使用する場合, または M+LCPU-iQSS_Backup と使用する場合, 使用要求番号が重複しないように注意してください。</p> <p>5) 本 FB では, 全ての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。</p> <p>6) 使用するシステム構成に合わせ, インタロックプログラムが必要です。</p> <p>7) 本 FB を複数使用した場合, または M+LCPU-iQSS_Backup と使用する場合, コンパイル時に特殊リレー (SM) の 2 重コイルワーニングが発生することがありますが, 使用権を取得しない限りは特殊リレーに対する操作を行いませんので, 使用上特に問題はありません。</p>
FB 動作	パルス型 (複数スキャン実行型)
使用例	項「付録 1. FB ライブラリ使用例」をご覧ください。
入出力信号の動き	<div> <div> <p>【正常終了の場合】</p> </div> <div> <p>【異常終了の場合】</p> </div> </div>
関連マニュアル	<ul style="list-style-type: none"> ・MELSEC-L CPU ユニットユーザーズマニュアル (ハードウェア設計・保守点検編) ・MELSEC-Q/L AnyWireASLINK マスタユニット ユーザーズマニュアル ・MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニット ユーザーズマニュアル ・iQ Sensor Solution リファレンスマニュアル ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (共通編) ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (インテリジェント機能ユニット操作編) ・GX Works2 Version1 オペレーティングマニュアル (シンプルプロジェクト・ファンクションブロック編)

エラーコード

●エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
10(10 進数)	L02SCPU または L02SCPU-P で実行された。	L02SCPU または L02SCPU-P では、リストア機能がサポートされていません。 本 FB がサポートする CPU ユニットであることを確認してください。
20(10 進数)	対象種別設定範囲外。 iw_TarType(対象種別)に、1 または 2 以外が設定されています。	設定を見直した後、再度 FB を実行してください。
30(10 進数)	リストア実行のための使用権獲得失敗。	iQSS 対象機器に対する、別のバックアップまたはリストアが実行されていないか確認してください。 バックアップ/リストア実行許可(SM1436)をセットし、バックアップ/リストア使用権状況(SD1436)が 0 クリアされることを確認して、再度 FB を実行してください。
40(10 進数)	対象となる iQSS 対応機器のリストアにおいてエラーが発生。	ow_UnitErrFactor(リストアユニットエラー要因)および ow_EquErrFactor(リストア機器詳細エラー要因)に格納されるエラーコードを確認してください。 エラーコードについては、各機器のマニュアルをご参照ください。

使用ラベル

●入カラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	ON,OFF	ON:FB を起動する OFF:FB を起動しない
バックアップ/リストア 使用要求番号	iw_UseReqNo	ワード	H1000～H1FFF	リストアを実行するための使用 権を取得するための重複しな い番号を指定します。
対象種別	iw_TarType	ワード	1,2	リストアの対象機種を指定しま す。 1:AnyWireASLINK 2:CC-Link
実行単位	iw_ExeUnit	ワード	1～3	リストアの実行単位を指定しま す。 対象種別が AnyWireASLINK の場合 1:ユニット単位 2:ID 単位 対象種別が CC-Link の場合 1:ユニット単位 2:局単位 3:局サブ ID 単位
リストア対象設定(ユ ニット)	iw_UnitNo	ワード	0～HFF	リストア対象となる iQSS 対応 機器が接続されているユニッ トの先頭 XY アドレスを 16 で 割った値を 16 進数で指定しま す。(例えば X10 の場合, H1 を入力してください)

名称(コメント)	ラベル名	データ型	有効範囲	説明
リストア対象設定(機器 1)	iw_TarSetting1	ワード	<p>対象種別が AnyWireASLINK の場合 0～254 ※1 512～766 ※2</p> <p>対象種別が CC-Link の場合 1～64</p>	<p>対象種別が AnyWireASLINK の場合 対象とする iQSS 対応機器の ID 番号を指定します。 ※1 出力スレーブユニットの場合 ※2 入力／複合スレーブユニットの場合は、アドレス +512 を指定します。</p> <p>対象種別が CC-Link の場合 対象とする iQSS 対応機器の局番, または対象とする iQSS 対応機器が接続された局番を指定します。</p>
リストア対象設定(機器 2)	iw_TarSetting2	ワード	<p>対象種別が AnyWireASLINK の場合 不使用</p> <p>対象種別が CC-Link の場合 0～9999</p>	<p>対象種別が AnyWireASLINK の場合 不使用です。</p> <p>対象種別が CC-Link の場合 対象とする iQSS 対応機器の局サブ ID 番号を指定します。</p>
リストア対象フォルダ番号	iw_TarFolderNo	ワード	0～99	リストアを行うバックアップデータが保存されている対象のフォルダ番号を指定します。
リストア動作設定	iw_OpeSetting	ワード	0,1	<p>リストアの動作設定を指定します。</p> <p>0:エラー発生時動作続行 1:エラー発生時動作停止</p>
リストア中止要求	ib_StopReq	ビット	ON,OFF	ON: 実行中のバックアップ/リストア処理を中止します。

●出力ラベル

名称(コメント)	ラベル名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON: 実行命令 ON 中。 OFF: 実行命令 OFF。
正常終了	FB_OK	ビット	OFF	対象のリストアが正常終了した場合に ON します。
リストア状態	ow_RestoreStatus	ワード	0	リストアの実行状態を示します。 0H: 未実行 1H: 準備中 2H: 実行中 3H: 完了 10H: 中止待ち 11H: 中止(エラーなし) FEH: 中止(エラーあり) FFH: エラー
リストア正常完了機器数	ow_OKEquipNum	ワード	0	実行単位ごとに、正常完了した機器数が格納されます。
リストア異常完了機器数	ow_NGEquipNum	ワード	0	実行単位ごとに、異常完了した機器数が格納されます。
リストアユニットエラー要因	ow_UnitErrFactor	ワード	0	CPU ユニット, AnyWireASLINK マスタユニット, CC-Link マスタユニットで発生したエラーコードが格納されます。 エラーコードについては、各ユニットのマニュアルをご参照ください。
リストア機器詳細エラー要因	ow_EquErrFactor	ワード	0	iQSS 対応機器で発生したエラーコードが格納されます。 エラーコードについては、各機器のマニュアルをご参照ください。
エラー終了	FB_ERROR	ビット	OFF	ON の場合、FB 内でエラーが発生したことを示します。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生した異常コードを返します。

処理説明

1) 対象機器の指定

SD メモリカードから内の情報を、指定されたユニットに接続される機器へ復元します。

実行単位により、復元対象とする機器を指定できます。

a) AnyWireASLINK 接続の場合

実行単位	内容
1: ユニット単位	iw_UnitNo(リストア対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの AnyWireASLINK マスタユニットに接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
2: ID 単位	iw_UnitNo(リストア対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの AnyWireASLINK マスタユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(リストア対象設定(機器 1))で指定された ID 番号の iQSS 対応機器の情報を対象とする。

b) CC-Link 接続の場合

実行単位	内容
1: ユニット単位	iw_UnitNo(リストア対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
2: 局単位	iw_UnitNo(リストア対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(リストア対象設定(機器 1))で指定された局番の iQSS 対応機器、または指定された局番に接続されている全ての iQSS 対応機器の情報を対象とする。
3: 局サブ ID 単位	iw_UnitNo(リストア対象設定(ユニット))で指定された XY 先頭アドレスの CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続されている機器の内、iw_TarSetting1(リストア対象設定(機器 1))で指定された局番に接続されている中で、iw_TarSetting2(リストア対象設定(機器 2))で指定された局サブ ID 番号の iQSS 対応機器の情報を対象とする。

2) リストアフォルダ指定方法

SD メモリカード上に保存するフォルダ名の番号を iw_TarFolderNo(リストア対象フォルダ番号)で指定します。

リストア対象フォルダ番号	内容
0~99	リストアフォルダ名の番号を 0~99 で指定します。

3) リストアフォルダ

フォルダおよびファイルの構成は、「2. 1. M+LCPU-iQSS_Backup(iQSS センサ情報保存)」をご参照ください。

FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2013/07/08	新規作成

お願い

本章はファンクションブロックの機能を説明した資料です。

ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項, 組み合わせによる制限事項などについては記載されていません。

ご使用にあたりましては, 必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

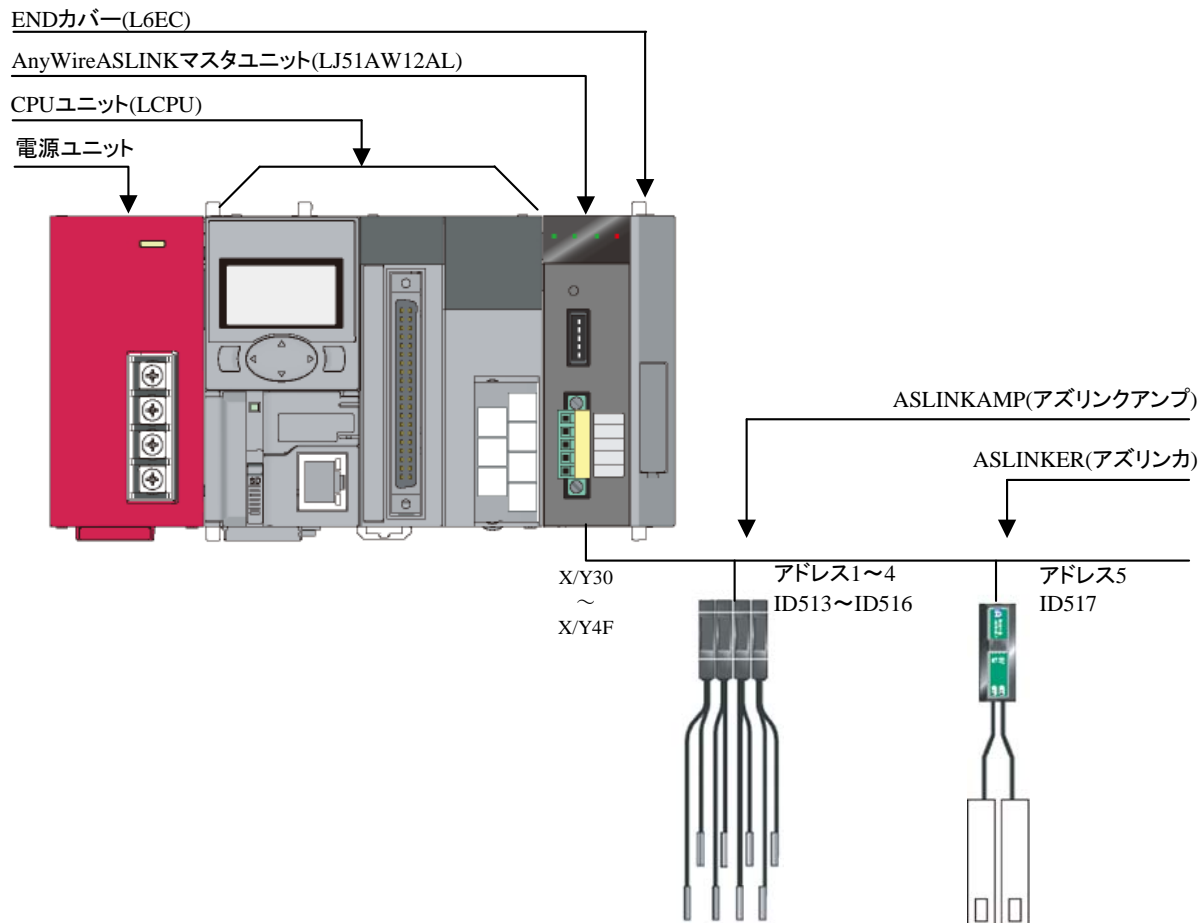


付録1. FBライブラリ使用例

付録1. 1. AnyWire ASLINK接続の場合

AnyWire ASLINK 接続の場合の LCPU-iQSS FB の使用例を以下に示します。

1) システム構成



注意点

- 全ての入カラベルにおいて回路の設定が必要です。
設定しない場合、不定値となります。
- ラベルコメントは、GX Works2 の表示可能文字数の関係により
省略形で記載していることがあります。

2) デバイス使用一覧

a) 外部入力 (指令)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M0	M+LCPU-iQSS_Backup	iQSS センサ情報保存要求
M1		iQSS センサ情報保存中止要求
M10	M+LCPU-iQSS_Restore	iQSS センサ情報復元要求
M11		iQSS センサ情報復元中止要求

b) 外部出力 (確認)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M2	M+LCPU-iQSS_Backup	iQSS センサ情報保存 FB 準備
M3		iQSS センサ情報保存完了
D0		iQSS センサ情報保存動作状態
D1		iQSS センサ情報保存先フォルダ番号
D2		iQSS センサ情報保存正常完了機器数
D3		iQSS センサ情報保存異常完了機器数
D4		iQSS センサ情報保存ユニットエラー要因
D5		iQSS センサ情報保存機器詳細エラー要因
F0		iQSS センサ情報保存 FB エラー終了
D6		iQSS センサ情報保存 FB エラーコード
M12	M+LCPU-iQSS_Restore	iQSS センサ情報復元 FB 準備
M13		iQSS センサ情報復元完了
D10		iQSS センサ情報復元動作状態
D11		iQSS センサ情報復元正常完了機器数
D12		iQSS センサ情報復元異常完了機器数
D13		iQSS センサ情報復元ユニットエラー要因
D14		iQSS センサ情報復元機器詳細エラー要因
F5		iQSS センサ情報復元 FB エラー終了
D15		iQSS センサ情報復元 FB エラーコード

3) グローバルラベル設定

なし

4) 使用例 設定

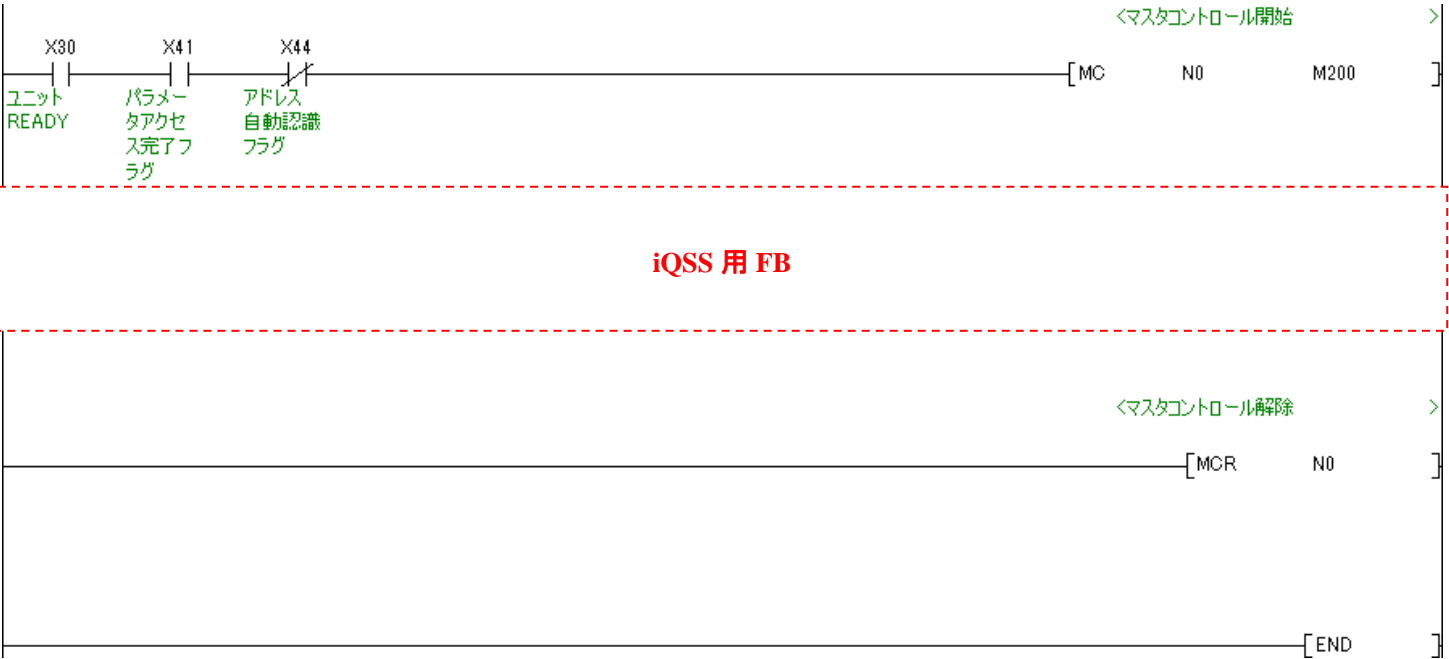
a) 共通設定

項目	値	説明
ユニット装着 XY アドレス	30	通信を行う AnyWireASLINK マスタユニットが装着されている先頭 XY アドレスを指定します。

5) プログラム

インタロックプログラム

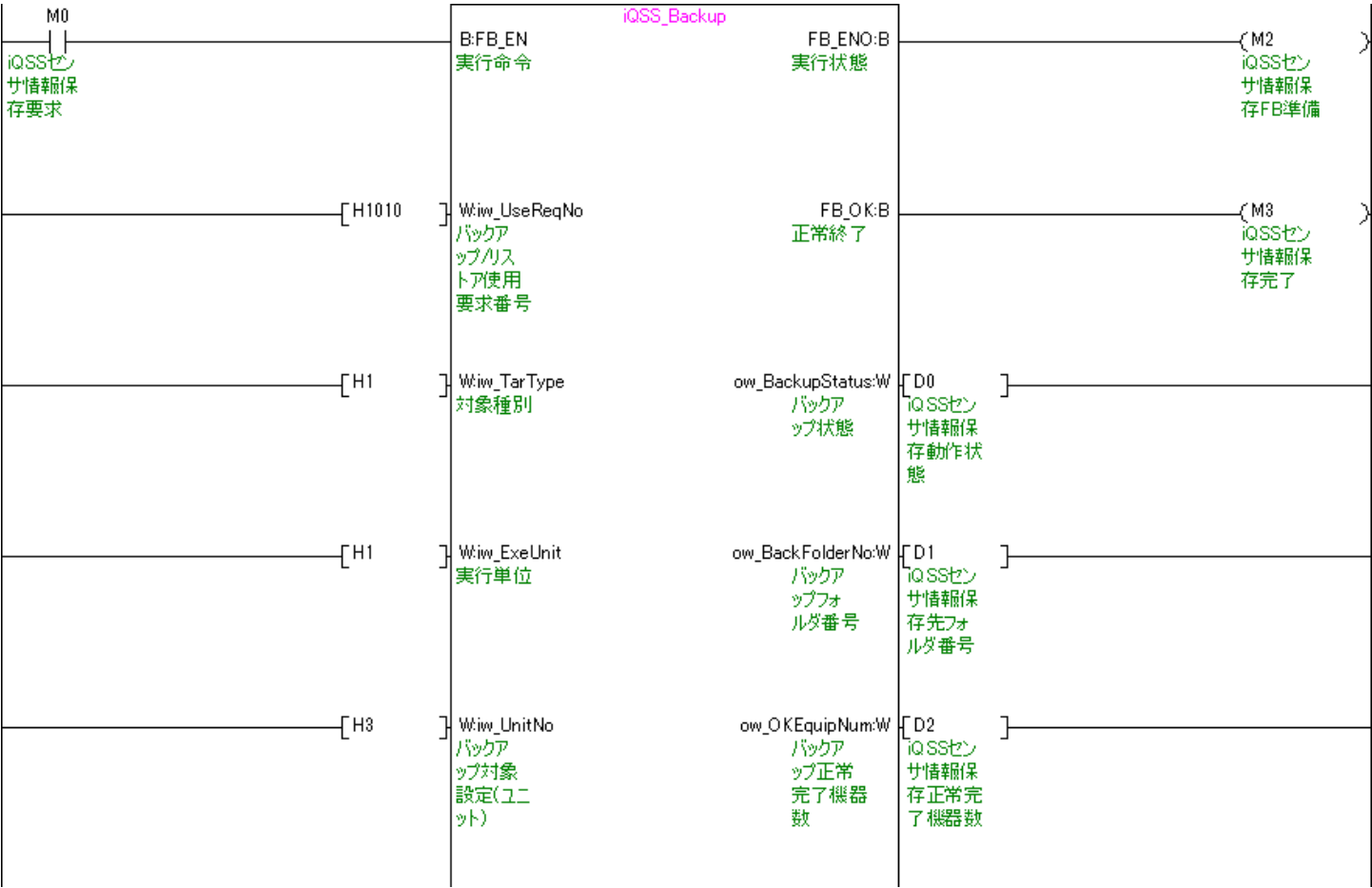
※ AnyWireASLINK マスタユニットの先頭 XY アドレスが H30 の場合のインタロックプログラムを記載いたします。



M+LCPU-iQSS_Backup(iQSSセンサ情報保存)

ラベル名	設定値	内容
iw_UseReqNo	H1010	使用権要求番号に H1010 を指定します。
iw_TarType	H1	対象種別に AnyWireASLINK を指定します。
iw_ExeUnit	H1	実行単位にユニット単位を指定します。
iw_UnitNo	H3	iQSS 対応機器が接続されているマスタユニットの先頭 XY アドレス H30 を 1/16 した値を設定します。
iw_TarSetting1	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarSetting2	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarFolderNo	K12	フォルダ番号に 12 を指定します。
iw_OpeSetting	H1	エラー発生時動作停止を選択します。

M0 を ON にすると、H30 のマスタユニットに接続された iQSS 対応機器の情報を SD メモリカードのフォルダ 12 への保存を開始します。



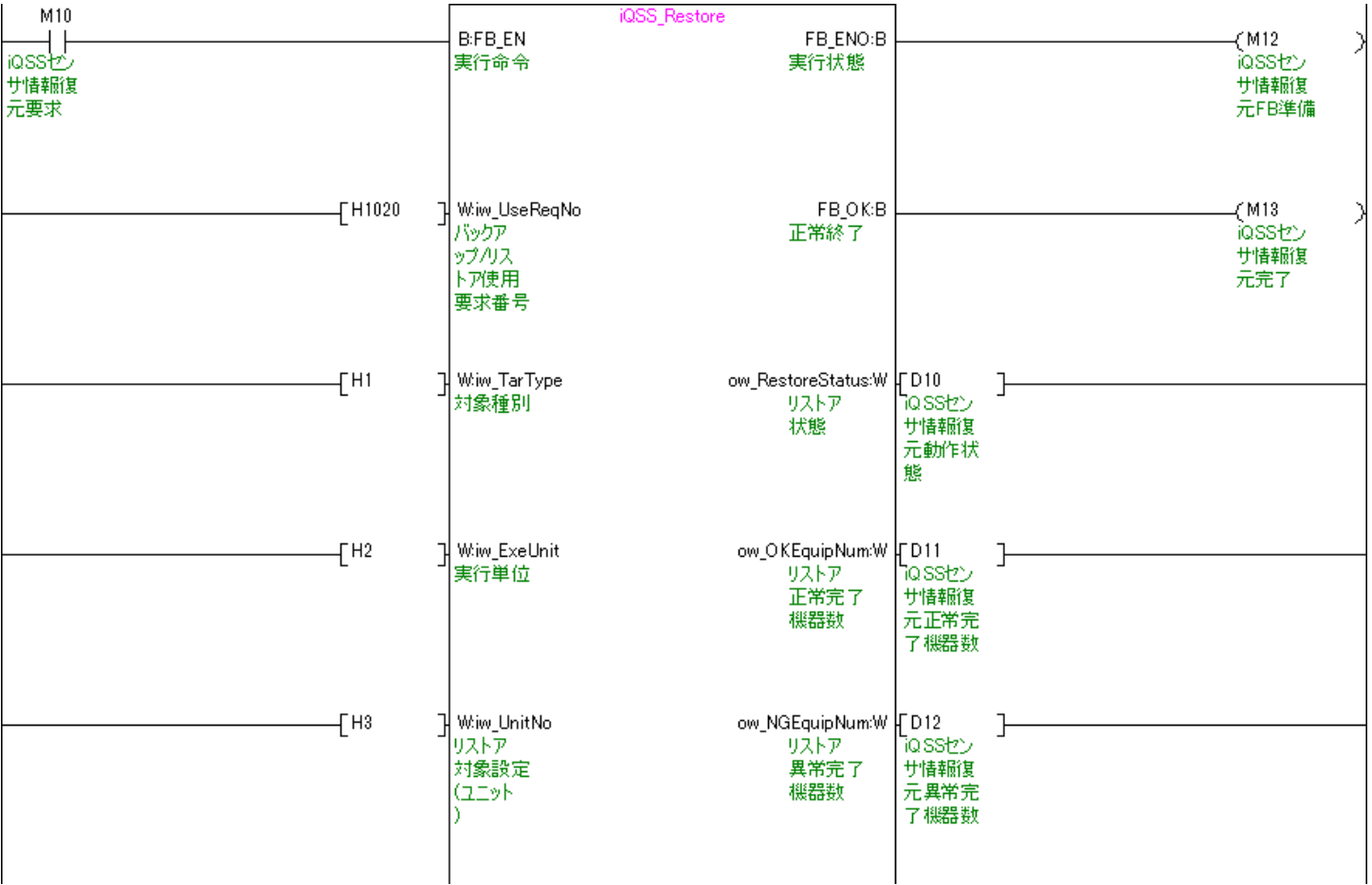
(続きは、次ページを参照してください。)

	[K0]	Wid_TarSetting1 バックアップ対象 設定(機器1)	ow_NGEquipNum:W バックアップ異常 完了機器数	[D3]	iQSSセンサ情報保 存異常完 了機器数
	[K0]	Wid_TarSetting2 バックアップ対象 設定(機器2)	ow_UnitErrFactor:W バックアップユニ ットエラー要因	[D4]	iQSSセンサ情 報保存ユニ ットエラー要因
	[K12]	Wiw_TarFolderNo バックアップ対象 フォルダ番号	ow_EquErrFactor:W バックアップ機器 詳細エラー要因	[D5]	iQSSセンサ情 報保存機 器詳細エラ ー要因
	[H1]	Wiw_OpeSetting バックアップ動作 設定	FB_ERROR:R エラー終了	(F0)	iQSSセンサ情報保 存FBエラー ー終了
M1 iQSSセンサ情報保 存中止要求		B:ib_StopReq バックアップ中止 要求	ERROR_ID:W エラーコード	[D6]	iQSSセンサ情報保 存FBエラー ーコード

M+LCPU-iQSS_Restore (iQSSセンサ情報復元)

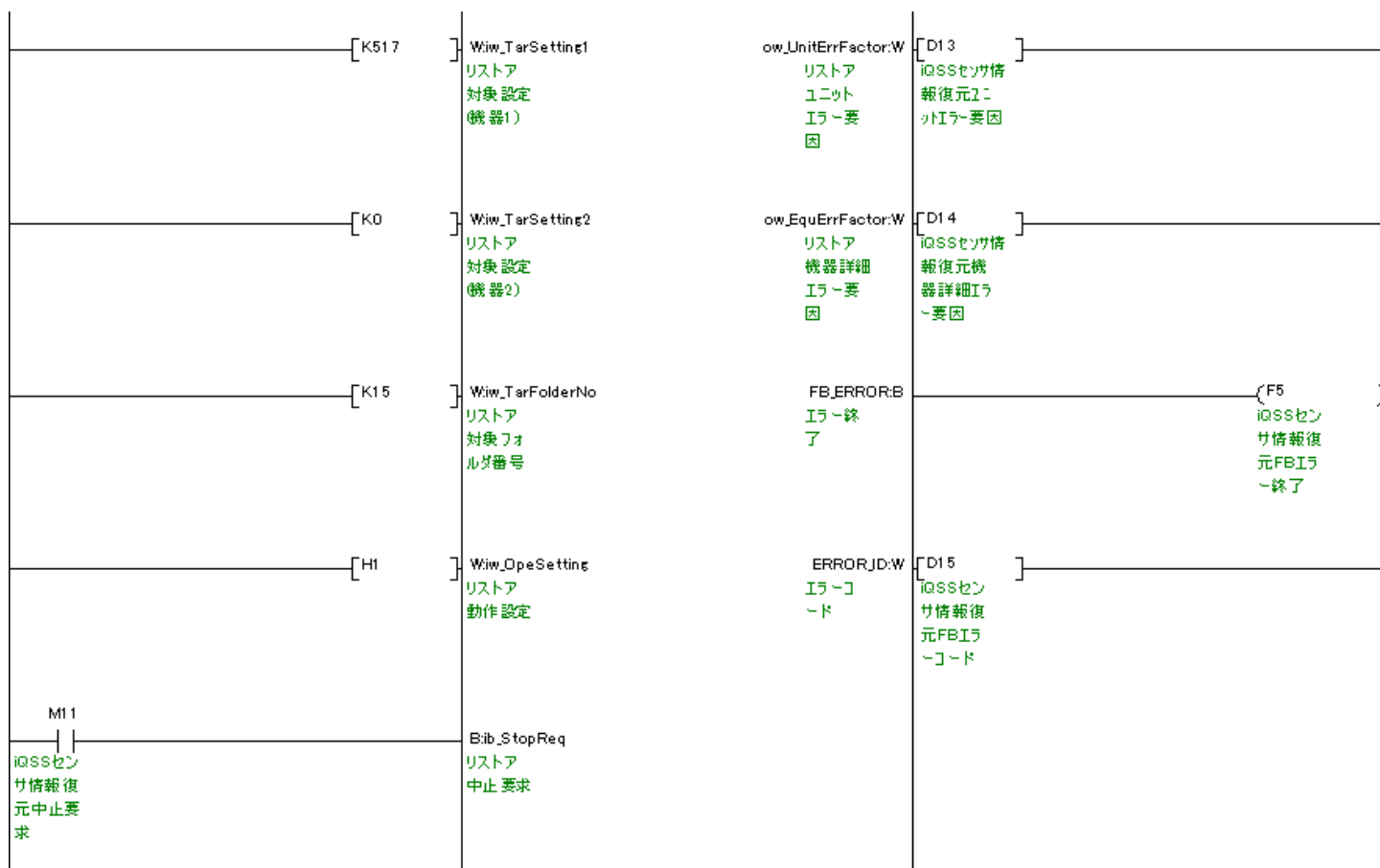
ラベル名	設定値	内容
iw_UseReqNo	H1020	使用権要求番号に H1020 を指定します。
iw_TarType	H1	対象種別に AnyWireASLINK を指定します。
iw_ExeUnit	H2	実行単位に ID 単位を指定します。
iw_UnitNo	H3	復元対象となる iQSS 対応機器が接続されているマスタユニットの先頭 XY アドレス H30 を 1/16 した値を設定します。
iw_TarSetting1	K517	復元対象となる ID517 の機器を指定します。
iw_TarSetting2	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarFolderNo	K15	フォルダ番号に 15 を指定します。
iw_OpeSetting	H1	エラー発生時動作停止を選択します。

M10 を ON にすると、SD メモリカードのフォルダ 15 に格納されているセンサ情報を、H30 のマスタユニットに接続された、ID517 の iQSS 対応機器への復元を開始します。



(続きは、次ページを参照してください。)

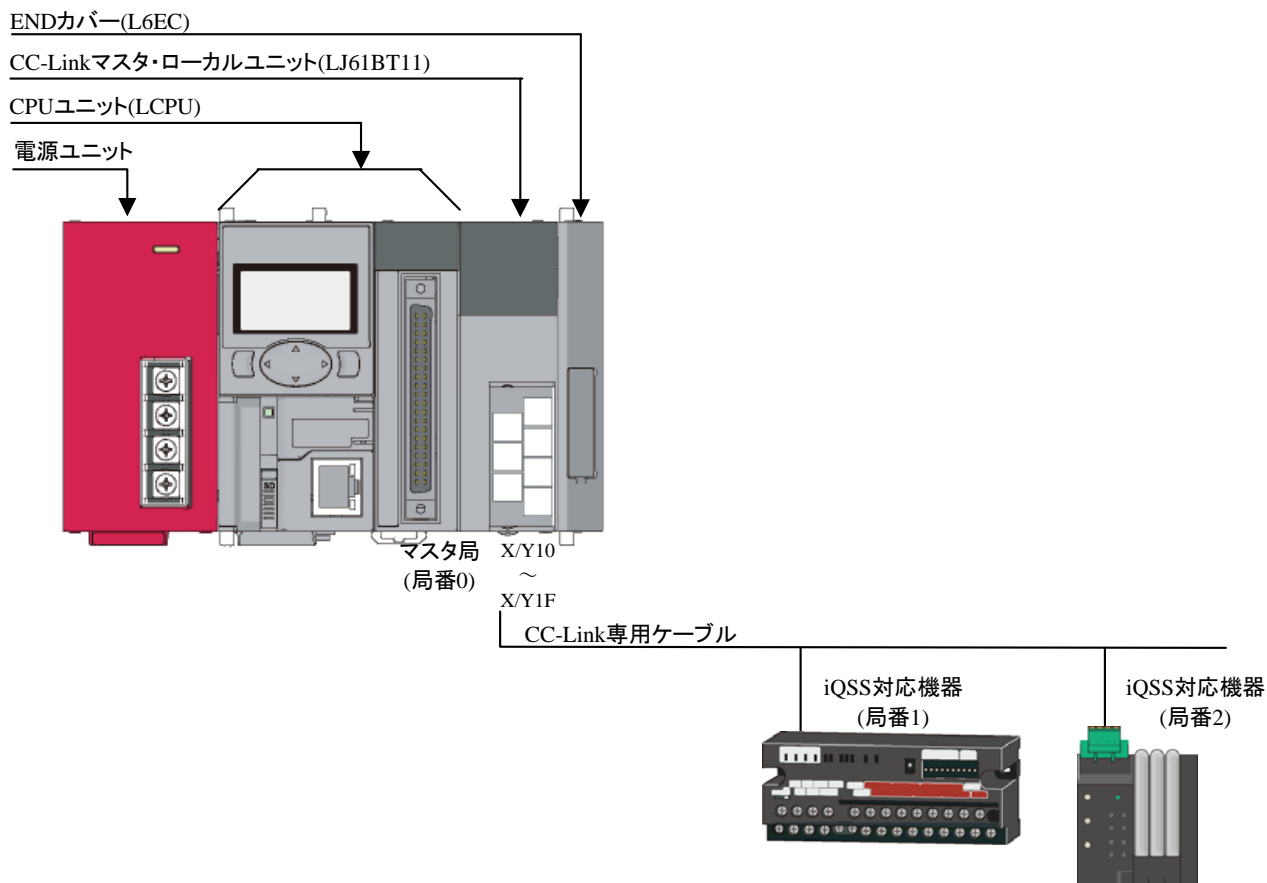




付録1. 2. CC-Link接続の場合

CC-Link 接続の場合の LCPU-iQSS FB の使用例を以下に示します。

1) システム構成



注意点

- ・全ての入力ラベルにおいて回路の設定が必要です。
設定しない場合、不定値となります。
- ・ラベルコメントは、GX Works2 の表示可能文字数の関係により
省略形で記載していることがあります。

2) デバイス使用一覧

a) 外部入力 (指令)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M0	M+LCPU-iQSS_Backup	iQSS センサ情報保存要求
M1		iQSS センサ情報保存中止要求
M10	M+LCPU-iQSS_Restore	iQSS センサ情報復元要求
M11		iQSS センサ情報復元中止要求

b) 外部出力 (確認)

デバイス	FB 名称	用途 (ON 時の内容)
M2	M+LCPU-iQSS_Backup	iQSS センサ情報保存 FB 準備
M3		iQSS センサ情報保存完了
D0		iQSS センサ情報保存動作状態
D1		iQSS センサ情報保存先フォルダ番号
D2		iQSS センサ情報保存正常完了機器数
D3		iQSS センサ情報保存異常完了機器数
D4		iQSS センサ情報保存ユニットエラー要因
D5		iQSS センサ情報保存機器詳細エラー要因
F0		iQSS センサ情報保存 FB エラー終了
D6		iQSS センサ情報保存 FB エラーコード
M12	M+LCPU-iQSS_Restore	iQSS センサ情報復元 FB 準備
M13		iQSS センサ情報復元完了
D10		iQSS センサ情報復元動作状態
D11		iQSS センサ情報復元正常完了機器数
D12		iQSS センサ情報復元異常完了機器数
D13		iQSS センサ情報復元ユニットエラー要因
D14		iQSS センサ情報復元機器詳細エラー要因
F5		iQSS センサ情報復元 FB エラー終了
D15		iQSS センサ情報復元 FB エラーコード

3) グローバルラベル設定

なし

4) 使用例 設定

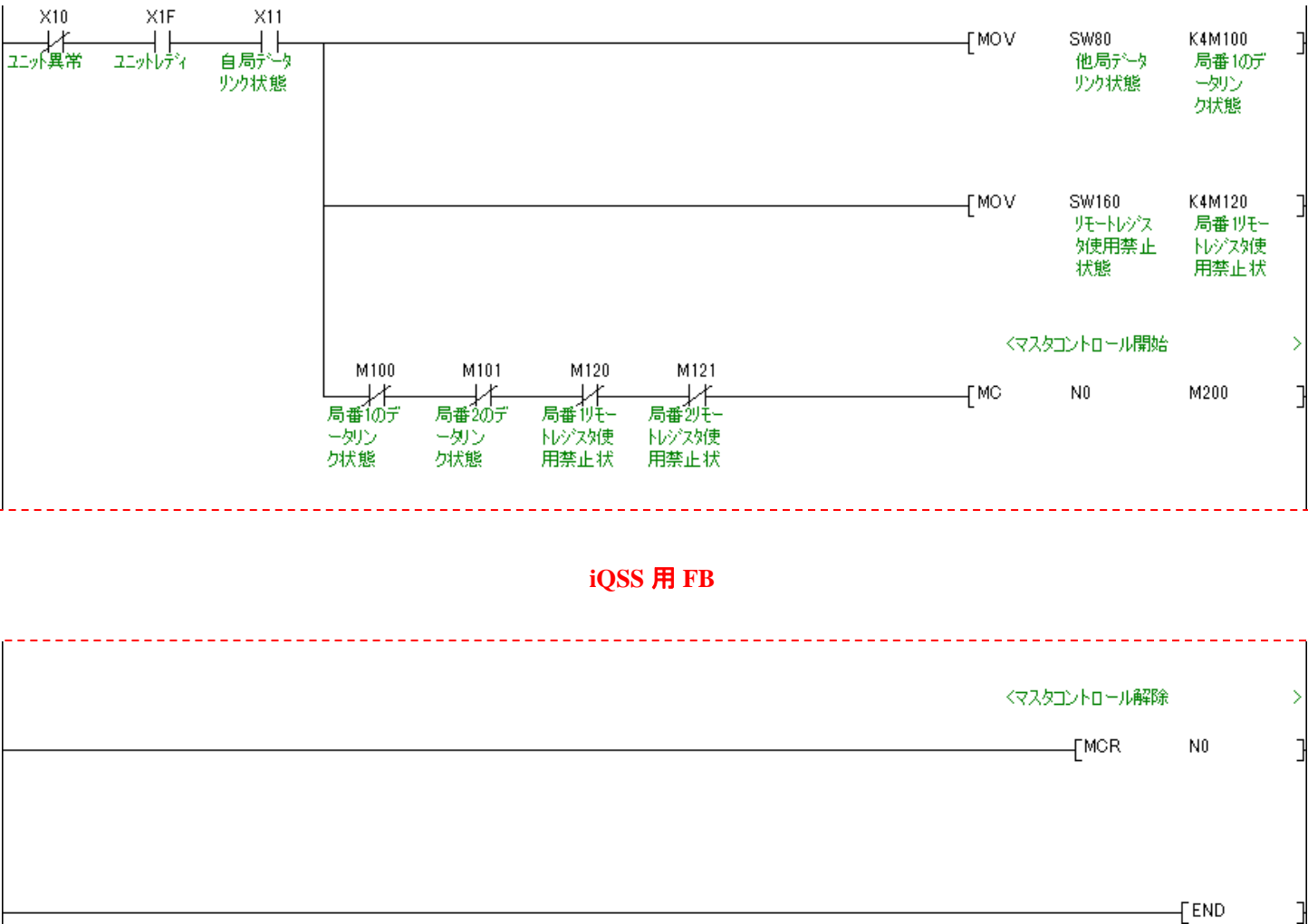
a) 共通設定

項目	値	説明
ユニット装着 XY アドレス	0010	通信を行う CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを指定します。

5) プログラム

インタロックプログラム

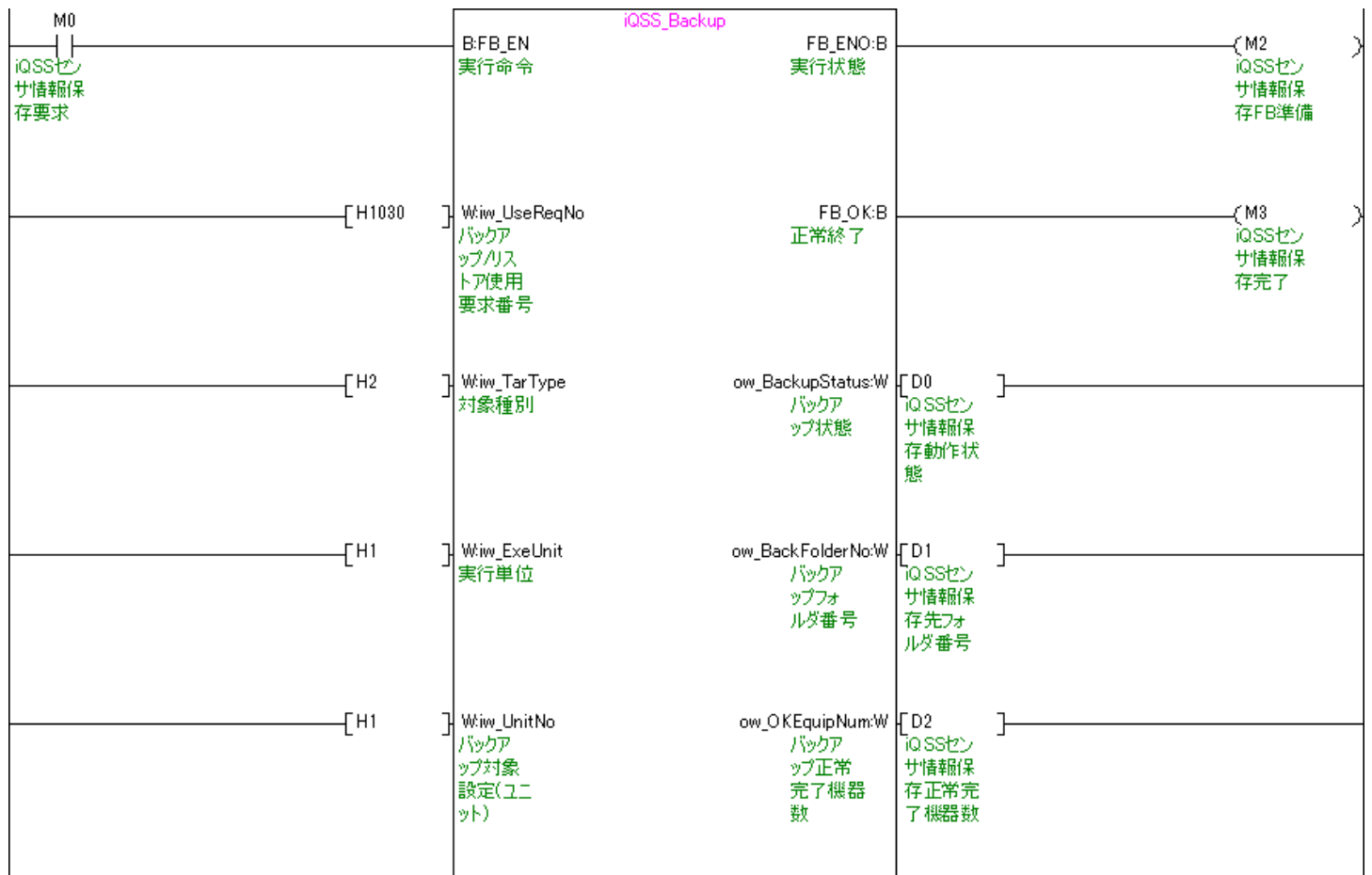
※ CC-Link システムマスタ・ローカルユニットの先頭 XY アドレスが H10 の場合のインタロックプログラムを記載いたします。



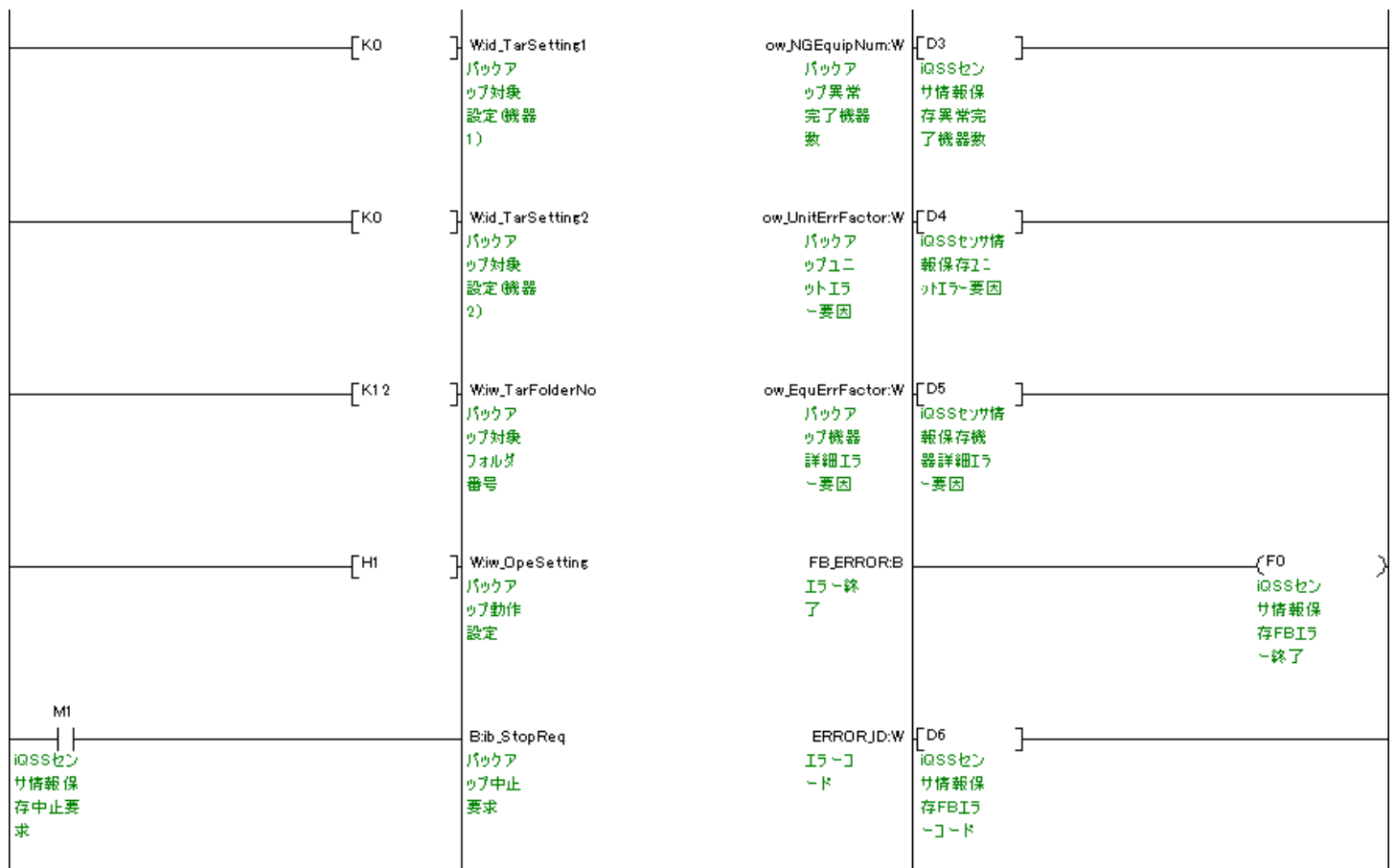
M+LCPU-iQSS_Backup(iQSSセンサ情報保存)

ラベル名	設定値	内容
iw_UseReqNo	H1030	使用権要求番号に H1030 を指定します。
iw_TarType	H2	対象種別に CC-Link を指定します。
iw_ExeUnit	H1	実行単位にユニット単位を指定します。
iw_UnitNo	H1	iQSS 対応機器が接続されている CC-Link システムマスタ・ローカルユニットの先頭 XY アドレス H10 を 1/16 した値を設定します。
iw_TarSetting1	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarSetting2	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarFolderNo	K12	フォルダ番号に 12 を指定します。
iw_OpeSetting	H1	エラー発生時動作停止を選択します。

M0 を ON にすると、H10 の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続された iQSS 対応機器の情報を SD メモ리카ードのフォルダ 12 への保存を開始します。



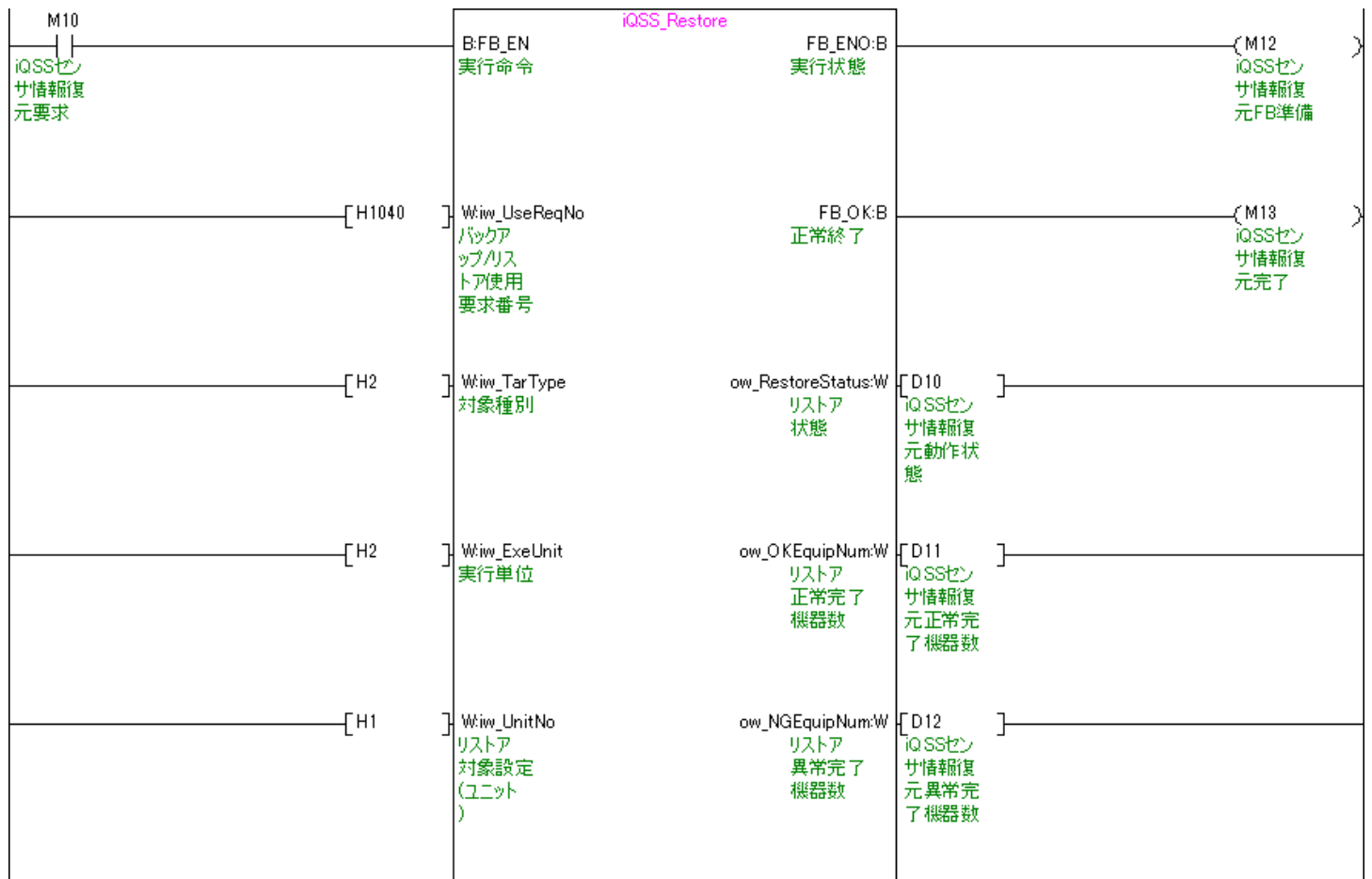
(続きは、次ページを参照してください。)



M+LCPU-iQSS_Restore (iQSSセンサ情報復元)

ラベル名	設定値	内容
iw_UseReqNo	H1040	使用権要求番号に H1040 を指定します。
iw_TarType	H2	対象種別に CC-Link を指定します。
iw_ExeUnit	H2	実行単位に局番単位を指定します。
iw_UnitNo	H1	iQSS 対応機器が接続されている CC-Link システムマスタ・ローカルユニットの先頭 XY アドレス H10 を 1/16 した値を設定します。
iw_TarSetting1	K1	復元対象となる局番に局番 1 を指定します。
iw_TarSetting2	K0	未使用のため、0 を指定します。
iw_TarFolderNo	K15	フォルダ番号に 15 を指定します。
iw_OpeSetting	H1	エラー発生時動作停止を選択します。

M10 を ON にすると、SD メモリカードのフォルダ 15 に格納されているセンサ情報を、H10 の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットに接続された、局番 1 の iQSS 対応機器への復元を開始します。



(続きは、次ページを参照してください。)

